雨上がり 霧に佇む丸山ダム



月刊 丸山ダム

2026年
10月号

発行所
美濃市内自宅
発行者
丸山ダム愛好家
佳（よっしー）

朝晩の気温が低くなり、紅葉の気配を感じ始めた丸山ダム地方。雨上がりのこの日は、濡れた堤体がいつにも増して重厚な存在感を放っていました。背後の山々には霧が立ちこめ、静かで幻想的な丸山ダムの姿を見ることができ大満足の編集長です。

新丸山ダム右岸掘削進む

新丸山ダム左岸の変化の大きさに目が行きがちですが、右岸でも着実に掘削が進んでいます。旧展望台の高さから徐々に掘削が進む右岸。いつしか丸山ダムの天端より低い位置まで進んでいました。ケーブルクレーンの操作室１階壁面には、新丸山ダムのダム軸を表す表示があり、掘削面には新丸山ダムの堤体がわかりやすく赤い線で示されています。右岸の掘削はまだまだ続くと思われますが、様子を観察していく所存です。





あの日の丸山ダム



月刊丸山ダム連載企画『あの日の丸山ダム』8回目は23年10月号を振り返ります。左岸は掘削が進んでいますが、ケーブルクレーンはまだ姿を現していません。記事内では新丸の骨材貯蔵ビンが増えていくところを捉えていました。現在活躍中の貯蔵ヤードが建設されていく過程が思い出されます。

丸山ダム定点Photo

まるっとテラスから観察した丸山ダム＆新丸山ダム。１年毎の変化です。あの日の丸山ダムから順に見ていくと大きな変化を感じられます。来年はどうなっているのか楽しみです。



2026年10月24日撮影



2025年10月25日撮影



2024年10月26日撮影